

高岡市総合計画審議会 第6回総括部会会議要旨

- 1 日 時 令和5年3月28日(火) 18時00分～19時10分
- 2 場 所 高岡市役所3階庁議室
- 3 出席者 委員5名、参与2名
- 4 議 題 ①新型コロナウイルス感染症の5類移行後に想定される各分野の状況等について(資料No.1)
②策定スケジュールについて(資料No.2)

【主な意見】

(新型コロナウイルス感染症)

- 委員
- ・5類移行後に想定される状況のプラス面とマイナス面は表裏一体であり、人の捉え方によって変わる。
 - ・コロナ禍で楽になった例として、お通夜の会場に参列者が集まらなくなったので、広いスペースが必要なくなった。コロナが世の中の不要なものを変えてくれた気がしている。
 - ・テレワークの定着については、東京でもテレワークを止めて出勤するという流れが出ており、元に戻りつつある。
 - ・90%以上は、コロナ禍前の世界に戻りつつある。施策もコロナという意識をなくしてもよいのではないかと思う。
- 委員
- ・全体として共通することは、デジタル化と人材育成である。これらをどのように進め、どこがイニシアチブを取ればよいのかを見極める必要がある。
- 部会長
- ・新しいことをするときには負担がかかるのは当たり前である。一時の負担であり、プラス思考で受け止めてもらいたい。

(産業)

- 委員
- ・企業業績について、売上が戻らないのは一部の企業だけだと思っている。企業によって差があるので、企業努力として捉えていかななくてはならない部分だと思う。
- 委員
- ・力のある事業者とない事業者とで大きな差がつく。高岡のような職人の町であれば、小さな事業所がこの流れに乗っていけるように後押しすることが大切である。いろいろな制度も変わってきており、その変化についていけないと閉鎖する事業所も出てくると思うので、市としてどのような支援や体制を取ることができるかを考える必要がある。
- 参与
- ・地域産業の分野では、高齢化した独居老人を見守りたい気持ちから、親が心配で都会から地元に戻ってきてテレワークをしているという例もある。単な

る働き方改革ではなく、福祉分野と連携を取りながら、政策を打ち出していくことも大事である。

(交流・観光)

- 委員
- ・弊社の産業観光は順調で、一か月で 15,000 人ほど来ており、コロナ前よりも人が多くなっている。
 - ・感染拡大前と異なる部分は、マスクをしている人が多いことと財布の紐が緩いことの 2 点である。買い物をする方が多く、一人あたりの単価が上がっている。
 - ・コロナは収束しているという意識の人が多いのではないか。しかし、マスクについては、個人差があってよいと思う。
- 部会長
- ・交流・観光の分野で、勝興寺が新たに国宝となったことについて、デジタル等を活用して発信していくということは現状に出てこないのか。コロナだけに絞ると苦しい部分もあるのでは。
- 市長
- ・5 類移行に想定される高岡独自の動きとして、国宝勝興寺の活用がある。昨日、道の駅「雨晴」に行ったが、平日とは思えないほどの人がいた。セミリタイアされた方を中心に曜日関係なく訪れてもらっている。令和 5 年度は、勝興寺を中心とした北部地域の魅力発信や産業観光にも力を入れていく。
- 委員
- ・インバウンドに関して、弊社には台湾からの団体客がたくさん来ている。これは、現地の旅行会社へ誘致活動をした結果である。行政としても旅行会社に対して誘致活動をしていくことが大事である。
- 市長
- ・インバウンドについては、積極的に誘致していく必要がある。観光については、市内の一つの観光地で終わるのではなく、市内の別の観光地にも訪れてもらえるような仕組みを作っていかななくてはならないと考えている。

(広域連携観光)

- 部会長
- ・着地型観光というのがあるが、点から面へ展開し、氷見や和倉ではなく高岡で宿泊してもらえると有難い。
- 市長
- ・今、氷見市でハンドボールの全国大会が開催されており、高岡のホテルや旅館にも多勢宿泊いただいた。高岡市単独ではなく、氷見市や射水市などの隣接市と連携して、全国大会等を誘致していくことも大切だ。
- 委員
- ・これからは、広域連携が非常に重要である。北陸三県の連携がもっとあってもよい。福井県出身でもあり、今、永平寺などと連携し始めているが、福井までは車の便も良く、1 時間 20 分ほどで移動できる。
 - ・北陸新幹線が敦賀延伸すると、京都・大阪・神戸の三都市が実施した観光キャンペーン『三都物語』のように、J R が北陸三県を一つの塊として P R を

始めると思うので、三県の連携は大事なことである。

- 市長
- ・福井県には大野市や万葉故地がある。この3年間はオンラインでのみ交流していた。万葉集の中で、大野市に関連するものが4首あり、3年間1首ずつ動画で残していた。あと1首残っており、来年度も動画で参加したいとの話もいただいている。勝興寺で開催した「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2022」は、高岡のほか、福井県や石川県にも会場があり、三県を跨ぐ形で実施した。
 - ・コロナ禍で進めてきたことをコロナがあげたときに、どのような形で進めるかということをお早々に検討していく必要がある。
 - ・北陸ディステーションキャンペーンが令和6年度に開催され、来年度ブレキャンペーンが行われる。観光については、高岡独自で取り組むものもあれば、広域で取り組むものもあると思うので、このチャンスを活かしていきたい。
- 参与
- ・昨年からの議長会において、観光分野では広域連携の話をしている。呉西6市の話をしているが、その圏域を超え、富山県全体での連携が必要とも言っている。また、富山県ほど鉄軌道が発達している県はないと聞くこともあるので、その強みも活かしていくべきである。

(祭り・行事)

- 委員
- ・これまで、町内の祭りや行事等を実施していなかったため、このまま立ち消えてしまうものが出てくることを一番懸念している。文化として大事なものであるため、継続していくことへの後押しが必要である。行政には後押しをお願いしたい。
 - ・イベントへ集客するために、どのように市民へPRするかも大事なことである。
- 委員
- ・地域の祭りについては、以前から少子化で実施できないという状態であったが、コロナ禍で縮小・中止となり、再開しようとしてもなかなか再開ができない。
 - ・福岡つくりもん祭りなどについては、若い世代の方がインスタグラム等で発信しており、新たな発想で継承していく動きも出ている。
- 市長
- ・地域の祭りの継承については、コロナ禍から活動再開させたいという意識を持っていた。コロナ禍だからできる準備があると思われ、コロナがあげるとすぐに活動できるよう支援させていただいた。これから地域が動き始めたときにどのような課題が出てくるのかを見極めなくてはならない。
- 部会長
- ・これまで市民との協働や共創に取り組んできたことが実践に結び付いているのではないか。

（地域交流・公民館）

- 委員 ・ コロナ禍を受け、公民館にデジタル技術を新たに取り入れた。子どもたちが使ったり、離れた地域の方とオンラインで交流できるようになった。コロナがなければできなかったことである。コロナ禍でデジタル化を加速させる動きがあることは良いことだと思う。
- 市長 ・ 令和5年度は、公民館をもう少し自由に使えるようにしたいと考えている。仮称だが、地域交流センターという名前にして、そこでいろいろなことができるようにする。生涯学習施設なので、出来ないことを探すのは簡単だが、ルールを見直し、もっと地域の方に自由に使ってもらえるように公民館を変えていこうとしている。
- 委員 ・ 学童も定員がいっぱいなので、小学校高学年の子どもには、地域交流センター（仮称）に行き、地域の高齢者に勉強や遊び方を教えてもらうなど、交流する機会につながればよいと思うので、新年度検討していきたい。今までの公民館機能に何を足していくのかを各地域の方に考えてもらいたい。
- 委員 ・ いろいろな人とのつながりが出てくることを期待したい。公民館に行くと誰かが何かを教えてくれるようになれば良い。例えば、マイナンバーカードの取得にしても、公民館に人材を配置し、公民館で対応できるようになると市役所まで足を運ばなくてよくなるのでは。
- 参与 ・ 歴史・文化の分野では、地域行事の継承に加え、役員が単年度で交代する環境のため、役員のなり手不足も課題である。例えば、短絡的なアンケート調査を実施し、反対51で、賛成が49の僅差だとしても反対で中止・縮小となったりする。コロナ後の住民の意識を変えていくことが大事である。

（地域行事再始動支援）

- 委員 ・ 地域活動がなかなか再開できない中、市から「地域行事再始動支援」という支援をいただいたのは非常に有難かった。
- 部会長 ・ 負の側面が目立つが、もっとプラス思考で考え、変わっていくチャンスや試練だというふうに捉え直すことが大事である。
- 委員 ・ 今だからこそ継承していかななくてはならないという意識を持たなくてはならない。
- 市長 ・ 高岡は地域との距離が近かったため、「地域行事再始動支援」という施策を打てたが、全国では、行政と地域との距離がかなりできており、地域の現状を把握できていない自治体が多かった。高岡は、地域とのつながりが強いと思うので、この強みをより強力で推進していきたい。
- 委員 ・ これまで蓄えてきたことが動き出すという意味になるので、再起動や再始動という言葉は良いと思う。

市長 ・新たに策定した行財政改革推進方針は、新しい時代を市民と共に考え、動き、
つくり出すという想いのもと、「高岡再始動計画」と位置付けた。令和5年
度はリスタートする年にしたいと考えている。

(子ども・教育・保育)

部会長 ・震災や戦争の後でも言われるが、それに匹敵するぐらいコロナ禍も人間形成
のうえで大きな影響があったと思う。

・学校に行って友達に会いたいという気持ちや、学校が楽しいという感覚が生
まれてきた気がする。対人関係、人間関係の良さを子どもたちは求めている。

・コロナ禍でのプラス部分は間違いなくデジタル化の推進である。インターネ
ットやスマホが自由に使える時代になってきたが、学校教育において、教え
る側がどのようにデジタル化に追いつき、子どもたちを引っ張っていくのか
という課題が見えてきた。

・リテラシー教育とあるが、インターネットの負の側面に気を付けなくてはな
らない。SNSの怖さとどのように付き合い、どのように利用し、活用しな
がら成長につなげていくのが課題である。ネットいじめや闇バイトなどの
課題も広がっているが、学校と家庭それぞれの立場や良さを活かして対応し
ていく必要がある。

参与 ・子育て・教育の分野では、ストレス等により、心の病気になる子どもが増え、
自殺者が増加している。子どもたちの心のケアが大切である。

部会長 ・感染症対策で教員や保育士の負担が増えたことは事実であり、負担増に耐え
かねてやめた教員や保育士もいる。ストレスが溜まって不適切保育につな
がっていることもある。子どもたちへのストレスケアに加え、教員や保育士の
ストレスに対処する必要がある。

(児童福祉・幼小接続・障がい者福祉)

委員 ・2020年4月からいろいろと始まることが、コロナ禍の影響でストップして
しまったものがいくつかある。1つ目は、体罰によらない子育てキャンペ
ーン(2019年6月の児童福祉法等の改正に伴い、「親権者等は、児童のしつけ
に際して、体罰を加えてはならない」ことが法定化され、2020年4月から施
行された)が大々的に始まったが目立たなかった。

・コロナ禍で親が家にいる時間が増えたことはプラスでもあり、マイナスに働
く家庭もある。虐待の対応件数の多くは、面前DVによる心理的虐待であり、
その比率が増えたことは、コロナ禍におけるマイナス要素である。しかし、
令和5年4月から、こども基本法が本格的にスタートするため、子どもを大
切にしていこうという機運が高まり、再スタートにつながるのではないかと

思っている。

- 2つ目は、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続し、体系的な教育を組織的に行う幼小接続である。2020年に本格実施する予定だったが、一斉休校となり、できなかった。5類に移行すると、これまで止まっていたことが動き出してくると思うので、応援していきたい。
- 3つ目は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、障がい者福祉の世界で、共生社会やインクルージョンを大々的にキャンペーンするはずだったが、立ち消えになった。2018～2019年にかけて動画や教材を作成し、準備していたことがうやむやになったり、無駄になったりしていたが、これらが動き出し、リスタートという形になるのではないかと。

(世代間交流)

- 委員
- コロナ禍で孫が外で遊ばず、YouTubeやゲームをしていたが、友達が遊びに来るようになりYouTubeを見なくなった。これまで抑制されていたが、友達が遊びに来て、いろいろな人と関わるのが普通のことだと思う。私が小さい頃は、友達と遊んだり、近所の方に怒られたりして、地域の中で育っていた。子どもたちと高齢者とでラジオ体操をすることはできないか。最近、核家族化により親子三世代の世帯も少なくなっているが、高齢者も子どもと触れ合いたいと思う。
- 市長
- 保護者は知らない人に反応するので、普段から交流できる場がないと信頼関係が生まれず、不審に思われる。

(医療)

- 参与
- 安全・安心の分野で、発熱外来に行こうとすると、高齢者と健常者とで線引きがされており、体調が悪いのにたらい回しにされた例を聞いたことがある。5類に移行すれば多くの病院で受診可能になるが、高岡における地域医療の推進を打ち出していく必要があるのではないかと。
 - かかりつけ医の存在や意義をしっかりと打ち出していく必要があると思う。医療を享受し、身近なところで生活していくことが利用としてあるので、かかりつけ医の立ち位置をしっかりとしておくことが大事である。
- 委員
- かかりつけ医に関しては、いろいろな考え方がある。設備の問題で発熱外来が持たない地域病院もある。発熱外来の在り方は継続しなくてはならない。現状を把握したうえで、県に要望していかないと、今高齢化している開業医の先生方が辞めていくのではないかとという危機感がある。

(ICT・ハイブリッド)

- 部会長 ・公民館で自由にオンラインができるよう、ICT環境が普及していけば更なる広がりが出てくる。
- 委員 ・AIやチャットGPTのような新しいデジタル技術も生まれている。リスクリングがいろいろな分野で大事になる。
- 市長 ・ラジオ体操については、若い保護者からも地域の高齢者に任せることはできないのかと言われることがある。来年度、高齢者向けのアプリの開発を進めることとしているが、デジタルラジオ体操スタンプラリーの機能を加えるなど、無限の可能性があるのでデジタルである。
- 委員 ・少しずつではあるが、高齢者のデジタルに対する抵抗感が薄れてきているように感じる。ハイブリットの余地を残しておき、みんなが忘れないようにしておく必要もある。また、資源のことも考え、どのようにペーパーレス化を進めていくかが大事である。
- 市長 ・本日の会議でも、市側はタブレットで資料を確認しているが、委員の皆さんは紙資料となっている。先日、民間の会議に参加した際、全員の机にタブレットが配布されており、民間は進んでいると感じた。
- ・どこにどのような支援をしていくのかを見極めながら取り組んでいく必要性をコロナ禍で学んだ。
- ・万葉集全20巻朗唱の会について、動画で参加する方法で実施したところ、海外や県外からの参加者が増え、交流人口の拡大にもつながった。デジタルだけでなく、ハイブリットにも取り組んでいくことは必要である。
- 参与 ・各分野において、デジタル技術の活用は必要である。高岡独自のデジタル技術の活用に取り組んでもらいたい。

(インフラ整備)

- 委員 ・コロナ禍の影響により人流が減ったため、3年間人が通らなかったから傷んでいる電柱や道路等がある。人の行き来が回復して、海外から多くの人を訪れることになるため、傷んでいる部分を少しずつ直していく必要がある。